

道北の地域振興を考える研究会セミナーにおける 本学の地域活動に関する報告



道北の地域振興を考える研究会セミナーの概要

本学の3名の教職員が会員として参加している、道北の地域振興を考える研究会（神沼公三郎会長）は、11月22日～23日に、「2014年度道北の地域振興を考える研究会セミナー」を稚内北星学園大学で開催した。

本セミナーは、「大学と地域はいかに連携すべきか」をテーマに、稚内北星学園大学と名寄市立大学の事例を中心として、大学が地域と連携して行う教育研究実践の実際・課題・展望に関する報告と議論を行い、持続可能な地域社会の確立に向けて望ましい大学と地域との連携の在り方が検討された。

今回のセミナーでは、文部科学省「地(知)の拠点推進事業」の採択を受けた本学の地(知)の拠点推進事業についても報告した。以下、斉藤学部長とゴータム准教授の行った報告の要旨を公表する。

報告要旨

地(知)の拠点整備事業の全体像と進捗状況

情報メディア学部長／COC事業推進責任者 斉藤 吉広

本学が採択されたCOC事業「地域の教育力向上とまちづくりで協働する地(知)の拠点整備」では、①地域の教育力向上、②観光まちづくり、③中心市街地活性化を課題としている。①に関わる放課後学習支援の経験については、ディスカッションでも「なぜ稚内ではできるのか」と議論になったが、行政や関係団体との緊密な話し合いが重要である点を訴えた。

またCOC事業そのものではないが、地元社会人の生涯学習の場としての夜間主クラス、市報の編集、学生主体の「まちづくりサロン」の取り組みなども紹介し、地域との多様なつながりの中で今回の事業を進めていくという見通しを述べた。さらに、短大時代には旺盛に行われていた名寄市立大学との交流の経緯について資料を提示し、今後あらためて連携を進めていけるよう期待を表明した。



稚内北星学園大学の地域無線ネットワークへの取り組み

情報メディア学部准教授 B. P. ゴータム

本学は、これまで地域ネットワークの研究を重ねてきた。その技術は、2010年度から海を渡り、ネパール・ヒマラヤ地域での無線ネットワークの構築についての研究として、室蘭工業大学とともに進行している。2012年度から、交通、ネットワークインフラの整っていない地域における低コストの無線ネットワークの構築を研究している。

以上の研究成果は、特に当該地域の学校教育に貢献している。今後は、高齢化福祉等への関わりについて研究を進め、稚内、宗谷地域におけるネットワーク構築にフィードバックする予定である。

ヒマラヤ地域で実証実験を行っている地域には、再生可能エネルギーのポテンシャルが高いため、ネットワークインフラの構築を通じてスマートコミュニティを実現したい。

スマートコミュニティの実現において、省エネ技術が必須であり、ネットワークの監視と管理が必要である。そこで、現在、ネットワークの監視と管理を行う自律制御ロボットを開発中である。



お問い合わせ先 (2014.12.1)
稚内北星学園大学COC推進委員会 担当: 黒木
〒097-0013 稚内市若葉台1丁目2290-28
電話 0162-32-7511 FAX 0162-32-7500
E-mail info(アット)wakhok.ac.jp
※(アット)は@に変換してください
URL <http://www.wakhok.ac.jp/coc.html>